

AOAセミナー ヤングリーダーズプログラム参加報告

日本共済協会 調査研究部 たに りょうた
谷 亮汰

本稿は、オーストラリア・シドニーで開催されたAOAセミナー（2023年9月25日～27日）に組み込まれて実施されたヤングリーダーズプログラムの参加報告です。

AOAは、国際協同組合保険連合（ICMIF）に所属するアジア・オセアニア地区の団体が集まる地域協会で、隔年でセミナーを開催しています。

ヤングリーダーズプログラムはICMIFロンドン総会（2017年）から始まり、以降継続的に開催され、AOAセミナーでの実施は香港（2018年）以降今回で2回目となります。

ヤングリーダー同士の交流やCEOとのラウンドテーブルを行いました。

日本会員からは、JA共済連（3名）、JF共水連（1名）、こくみん共済 coop <全労済>（6名）、コープ共済連（3名）、日本共済協会（1名）の5団体から計14名が参加しました。

日本共済協会では、国内外の協同組合／相互扶助の共済・保険組織における取り組みの共有と情報収集に取り組んでいます。さらに、国内外の共済団体における若手職員のネットワーク構築とスキル向上にも力を入れており、この一環として、私がYLPに参加し、貴重な経験を積む機会を得ました。

この経験について、本誌で報告いたします。

はじめに

ヤングリーダーズプログラム（以下、「YLP」）は、ICMIF会員団体における18歳から35歳の若手リーダーを対象としたプログラムです。このプログラムは、参加者が共済・保険業界の国際的課題や会員団体の取り組みの動きに接し、会員団体のCEOなどの経営幹部との意見交換や他団体の若手職員とともに学び協力し合うことを通じて、各自の知識・行動力を高め、国内外の広いネットワークを構築して今後の活躍の場を広げることを目的としています。

今回のYLPでは、5カ国、23名がプログラムに参加し、セミナー前後の時間を利用して、

1. YLP事前交流会

AOAセミナー・YLP参加に際し、国内のYLP参加者同士の交流を促進するために、当協会主催のYLP事前交流会が2023年8月21日に開催されました。



YLP事前交流会の様子

この交流会では、AOA事務局によるAOAおよびYLPの概要説明や、過去のYLP参加者による経験談のスピーチを通じて、参加に対する不安を軽減し、グループワークを通して、自身および他団体の現状や課題を共有することで、AOA・YLPへの参加目的を明確にしました。

私は、この交流会を通じて、YLPへの参加に対する目的意識を共有することができ、参加へ期待感が高まりました。そして、ヤングリーダー同士の連帯感が強まり、他の共済団体のメンバーとの交流の重要性を実感しました。

2. ヤングリーダーズウェルカムドリンク

AOAセミナー1日目（9月25日）は、YLP参加者の交流を図るため、ヤングリーダーズウェルカムドリンクが行われました。

日本のほかオーストラリア、フィリピン、スリランカ、英国の参加者が自己紹介や所属団体の説明を行い、YLPへの参加目的を共有しました。

また、ゲーム形式で自分の価値観や考え方を共有する時間も設けられ、国外のYLP参加者との関係構築や、今回参加した目的や関心事について共有することができました。



ヤングリーダーズウェルカムドリンク

3. CEOラウンドテーブル

AOAセミナー3日目（9月27日）は、メインプログラムであるCEOラウンドテーブルが開催されました。

ラウンドテーブルとは、組織内コミュニケーションの方法の一つで、文字通り円卓を囲んで行われる会議や討論の形式です。この方法の特徴は、参加者全員が同じテーブルを囲んで対等な立場で話し合える点にあります。

このプログラムでは、各テーブルにCEOが1名とヤングリーダーが5名程度、同時通訳が1名同席し討論を行いました。

私は、ニュージーランドのミューチュアル保険であるファーマーズ ミューチュアル グループ（以下、「FMG」）のCEOであるアダム・ヒース氏のテーブルに参加しました。

ラウンドテーブルでの論点は、AOAセミナーの議題である魅力ある職場づくりやデジタルトランスフォーメーション、気候変動リスクなどの内容に加え、組織のリーダーとしての考え方や、これからの世代に期待していることなどについてでした。

その中で私は、ヒース氏に対して、共済や協同組合保険が将来直面すると考えられる問題について聞いたところ、「私たちの課題の一つは、資本へのアクセスの難しさです。特に、地震や津波、サイクロン、洪水などの大規模な自然災害が頻発するニュージーランドでは、この問題が顕著です。安定した運営と資本の増強が不可欠であり、一定の利益を確保しつつ、利益を上げ過ぎないようにバランスを保ち、農家や生産者などの主要メンバーを支援することが求められます」という回答がありました。

ヒース氏の回答を受けて、営利を目的としない相互扶助組織が、気候変動など増大するリスクの中で、どのように事業を安定的に継続していくべきか、そしてその難しさについて、改めて考えさせられました。



アダム・ヒース氏（左）とYLP参加者

その他のヤングリーダーからも、多くの質問があり、それに対するヒース氏の示唆に富む回答がありましたので、一部紹介します。

若い世代に期待すること、役割、行動について教えていただきたいという質問には、「気候変動への取り組みが重要な課題で、若い世代はこの重要な課題に答える責任を担っています。そしてその決断の軸は、国民、地域社会、そして将来の世代にとって良いことであれば、それは少なくとも正しい方向への一歩になると思います」と述べました。

新しい挑戦に臨む際の不安や自信の欠如について、どうすれば一歩前進できるのかという質問に対しては、「常に成長マインドを持ち、新しい経験に対して常にオープンであることが重要です。リーダーシップを発揮するためには、変化を試み、学び、他者を助けるマインドセットを持つこと、そして失敗を恐れないこと。失敗は学びの第一歩であり、失敗を通じて学び、成長し改善することが重要です」と自らの経験をもとに助言がありました。

また、組織内での帰属意識や共通の目標を理解させるために重要なことについて、コミュニケーションがとにかく重要で、伝えたい内容を明確にし、常にコミュニケーションの機会を探し、キーメッセージを強調することが肝心であることや、協同組合に必要な人材

については、多様性を持つことが非常に重要であることを強調していました。

気候変動といった若い世代が直面する大きな課題を改めて認識し、その解決には国民、地域社会、そして将来の世代を意識した行動が必要だというCEOの言葉に、若い世代への期待感を改めて感じました。

また、新しい挑戦へのオープンな心構え、失敗を恐れず学び続ける姿勢の大切さ、組織内のコミュニケーションの重要性、多様性の受け入れなど、自分が不足している点を反省し、意識を変えていく必要性を感じました。

全体を通して、若い世代が今後直面する課題への対応方法に関して、非常に有益なアドバイスだったと思っています。

私の中で特に印象に残ったのは、ヒース氏の「FMGは、過去への敬意、現在への現実性、未来への楽観性を大切にしている」という言葉です。これは相互扶助組織としてのFMGの理念を表しており、ヤングリーダーにとっても、これからさまざまな経験をしていく中で、重要な考え方ではないかと考えます。

4. YLP参加報告会

AOAセミナー・YLP参加より2カ月が経過した2023年12月12日に、当協会主催のYLP参加報告会が開催されました。

国内の各共済団体のヤングリーダーたちが



YLP参加報告会后



YLP参加者

気づきや学びを共有する貴重な機会となり、参加者同士の絆も一層深まったと感じました。

各ヤングリーダーのAOAセミナーやYLPを通じて得た気づきや学び、今後の業務への応用、決意表明等のコメントは、本記事の末尾でご紹介します。

おわりに

CEOラウンドテーブルの中で、「相互扶助の真の意味を理解するには5年はかかる」との発言がありました。

この言葉を聞き、私は相互扶助について本当の意味で理解できているのだろうかと考えさせられました。

今回のAOAセミナー・YLPに参加し、国内外の同じ志を持つ人々の講演を聴き、また海外のCEOとの対話を通じて、相互扶助の真の意味を少しでも理解できたならば、参加した価値は十分にあったと私は考えています。

さらに、AOA会員団体のCEOやヤングリーダーたちとの交流と意見交換を通じて、相互扶助組織の将来的な役割、気候変動への対応策、デジタルトランスフォーメーションへ

のアプローチ、相互扶助に対する考え方、リーダーシップに関する見解など、多くの洞察を得ました。

今回の参加を経験し、この学びを活かすためには、今後、国内外の共済や協同組合保険における経営課題や取り組みに関する情報を継続的に収集し、共有・発信することが重要だと考えています。

また、国内外の共済団体や協同組合保険のヤングリーダーたちと積極的に交流し、今後も継続的な関係を築き、情報共有を行いたいと思います。

最後に、今回のYLP活動において、多くの人からご協力をいただきました。AOA事務局、各団体のYLP事務局および過去の参加者、さらにGallagher ReとSwiss Reの関係者からも大きなサポートをいただきました。心より感謝申し上げます。

氏名 (会員団体名)	コメント
熊崎 弘二 JA共済連	<p>世界でも自分の地域を残していくために「たすけあい」の思いを形にした共済が必要であり、我々がその意義・価値を認めてもらうべく世界に発信していく責任と役割があると強く認識しました。また、コロナ禍を乗り越えてデジタル革新による新たなつながりが生まれており、特に共済組織では、よりデジタル活用をしていく必要があると実感しました。</p> <p>AOAのYLPは世界と世代のつながりを実感できるとてもよい機会でありオススメです！</p>
猿田 浩己 JA共済連	<p>今回のセミナーは他団体との関係性を築ききっかけ（スタートライン）であり、この関係性を今後どのように継続・発展させていくかが最も重要であること、またこの点についてはCEOラウンドテーブル等を通して強く期待されていることを実感しました。帰国後より、Gallagher Re・Swiss Reとともにヤングリーダー間の継続的かつより強固な関係性構築等を目的とした「フォローアップ活動」を企画検討しており、実現に向け、引き続き検討していきたいと思えます。</p>
椎名 ひとみ JA共済連	<p>国ごとに経済や文化、環境などが全く異なっている中で、AOAに参加している全ての組織には、「メンバー（組合員・利用者）のために」という共通の目的がありました。最近では、気候変動やデジタル変革などの大きな課題に直面していますが、改めて目的意識と帰属意識を持ち、何をすべきか、何ができるかを考え続け、社会、組織、そして自分自身のために、さまざまなことにチャレンジしていきたいと思えます。何よりも、同じ使命を担う仲間巡りに巡り合えたことに、心から感謝します。</p>
和泉 信孝 JF共水連	<p>各国の企業・共済団体による成功体験やこれまでの取り組みを紹介・共有してもらうことで、通常業務では得られない特別な経験が得られました。また、JF共済の目指している“海に生き、浜に生活する暮らしを守る”ためにできる取り組みが数多くあることを肌で感じる事ができました。そして、現在の方法や取り組みが正しいのかを俯瞰し、疑問を持ちながら考えることの大切さを仲間と共有・確認し続けたいです。</p>
赤坂 譲 こくみん共済 coop <全労済>	<p>私は視野を広げ、自組織へ影響を与える学びを得たいと考え、今回AOAセミナー・YLPに参加しました。全体を通じて、協同組合組織ごとに「組合員のために何ができるのか」、さまざまな視野・視座・視点から検討し、実行していることがとても印象的でした。</p> <p>日本の協同組合組織として、組合員や社会から今よりも求められる組織になるべく、「組合員のみなさまのために」をキーワードに日々活動していきたいと思えます。</p>
岡本 翼 こくみん共済 coop <全労済>	<p>世界の協同組合における価値観、課題認識、取り組み内容に強く共感しました。一方で、私は協同組合で働く一員として日々の行動に利他の精神を体現できているのか、目的意識を持ってひるまずにチャレンジできているのかとAOAセミナー・YLPを通して大きな刺激と焦りを感じました。今後の行動を変えるきっかけをいただいたことに感謝し、日々の些細な行動にこだわって人間力を磨き、良きリーダーになれるよう、ここに決意表明いたします。</p>

氏名 (会員団体名)	コメント
石原 史貴 こくみん共済 coop <全労済>	<p>今回のセミナーでは気候変動への取り組みをはじめとしてさまざまな社会課題に対して協同組合組織としてどのように向き合っていくのかという非常に大きい視点で学びを得ることができました。</p> <p>また各国の協同組合保険組織からの参加者との対話の中で共済生協であることのアイデンティティを今まで以上に考えるきっかけとなりました。今後の業務の中でも協同組合組織としての大局的な視点をもって業務に邁進したいと思います。</p>
水野 恵理 こくみん共済 coop <全労済>	<p>自組織の中で業務を行うだけでは感じることのできない、協同組合組織相互のつながりを実感しました。また、気候変動などの困難な課題に取り組む会員の姿勢を目の当たりにしたことで、共済という事業の可能性を感じるすることができました。この学びを活かし、「目的意識」を持って行動し続けたいと思います。そして、貴重な機会をいただいた職員として恥じぬよう、成長していきたいです。</p>
原 摩維 こくみん共済 coop <全労済>	<p>AOAセミナー・YLPへの参加を通じ、組合員目線を大切にする協同組合組織の意義を再認識できました。また、相互扶助精神に基づき日々奮闘している同志と顔を合わせ、熱量を感じる距離でコミュニケーションをとることができたのは、何物にも代えがたい経験でした。「おそれず挑戦すること」と「多様性を認め合い、感謝の気持ちを大切にすること」を心がけ、モチベーションを保ちながら業務に邁進していきたいです。</p>
柏原 未貴 こくみん共済 coop <全労済>	<p>セミナーでのセッションや他団体との交流から新たな視点や違った視野、高い視座を学ぶことができ、そして同じ想いをもった人が同じ志に向かって活動することの力強さを体感することができました。</p> <p>今後は、1人では困難なことでも他者と力を合わせることで成し遂げられる可能性があることを日常業務の中で意識し、人とのつながりを大切に、多様性を受け入れ、相手への感謝と尊敬の意をもって、より組合員や組織へ貢献していきたいです。</p>
伊藤 倫仁 コープ共済連	<p>AOAセミナーへの参加で、「世界のため・社会のために協同組合ができること」という大きな視点から自分の役割や業務を見つめることができ、視座を高める貴重な機会となりました。また、気候変動や災害、少子高齢化など、困難な道のりが待ち受ける中で、私たちの使命を再確認するとともに、組織間協同の可能性を学びました。今回の経験を糧に、変化や失敗を恐れず、挑戦し続けることで組合員のくらしや会員生協に貢献したいと思います。</p>
大原 綾夏 コープ共済連	<p>AOAセミナーに参加し「各組織が協力し合えば、より多くの人・世界に貢献できる」というメッセージに感銘を受けました。予測不能な自然災害、複雑化する世の中では、一層各組織が協力し合うことが重要になると感じました。</p> <p>事前準備から他団体の組織とつながりを持ち、YLPに参加できたことはこれから働く上で大きな財産となりました。魅力ある組織を作り、これからも互いに協力し合える関係を築いていきたいです。</p>
日高 琢磨 コープ共済連	<p>日本・海外のヤングリーダーやCEOと交流を深めることができる貴重な場において、同じ目的を持った組織で「どのような人が働いているのか」「どのような潮流があるのか」を知ることができ、自分自身が協同組合の中で働く意味や共済や生協の魅力を再認識できました。今後の業務においては、固定観念にとらわれることなく柔軟な頭と心を持ち続け、DXの活用を通じて組織や組合員のくらしに貢献したいと思いました。</p>